

平成27年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1. 応募区分： 図書館活動における功績
2. 対象者： 広島大学図書館 ライティングセンター実務担当者グループ
(代表者：上田 大輔)
3. 件名： 大学図書館の機能を拡張し発展させる広島大学ライティングセンターの取り組み
4. 結果： 採択

5. 理由： 本件は、広島大学図書館が中心となり、大学ライティングセンターを立ち上げ、教育部門と連携して支援人材を育成し、学修支援・研究支援の両面で学生から教員までを対象にライティングスキルの向上に取り組んだ事業である。

広島大学では、平成24年度に「行動計画2012」においてライティングセンターの設置を定め、学習支援活動の実績により図書館がセンターの中心的な運営を担う部署に選ばれた。これを受け、図書館では平成24年度の準備期を経て、平成25年度にはセンターを立ち上げ、大学院授業と連携して学生チューターの養成を行い、日本語個別相談サービスを開始した。平成26年度には、研究担当部署との協力関係を築き、専任教員を配置し英語論文に関する支援を開始した。

運営体制は、図書館長がセンター長となり、図書館を中心に、研究企画室、URAが協力して運営を担い、専任教員及び大学院生によるチューターが実際の支援に当たっている。設置場所は中央図書館1階である。支援プログラムは学修支援と研究支援の二つの機能を持ち、レベルに応じたアカデミックライティングスキルの向上を支援している。日本語個別相談の主な利用層は大学院生であり、満足度の高い結果が出されている。さらに、英文校正費助成事業などを開発し、センターの事業を研究力強化や学術情報の発信に展開している。

大学におけるライティング指導や図書館におけるライティング支援は、先行大学で様々に試みられており、独創的な取り組みとまでは言えない。しかし、大学の方針のもとに図書館が中心となってライティングセンターを組織し、段階的かつ計画的にバランスのとれた支援プログラムを構築して実行に移し、教育部門と連携して支援人材を育成し、教育・研究両面での支援体制を整えた点が総合的に優れており、大学における図書館の機能を拡張・発展させた取り組みとして、先進的であること、図書館活動において顕著な意義を有するものであることから、「国立大学図書館協会賞選考基準」第4条第1項第4号に該当し、国立大学図書館協会賞として推薦する。

なお、今後、学部生や教員へのレベルに応じたプログラムの進展が望まれるとともに、図書館員がセンターの運営のみならず直接的に支援に関わり、図書館員の資質向上及び役割強化につながることを期待したい。